



ガンダム

マフタン

モデルグラフィックス編

Model Graphix

大日本絵画



Model Graphix
ボトムスアークアィヴス

月刊モデルグラフィックス編

大日本絵画

3



ボトムズ アークライヴス 3

月刊モデルグラフィックス編



模型専門雑誌『月刊モデルグラフィックス』には毎月数々のロボット／メカものの作例やスクラッチビルド作例が掲載されていますが、本書ではその膨大な作例群の中から『装甲騎兵ボトムズ』とその外伝作品に登場するアーマードトルーパー（AT）の作例をピックアップしてまとめたものです。なお、本書内でのボトムズ世界考証は模型を楽しむための独自のものです。公式設定を下敷きにしていますがサンライズ公式設定ではないことをお断りいたします。

*本書では基本的に雑誌掲載当時の記事表記に準拠するようにしています。そのため、「本誌」＝『月刊モデルグラフィックス』となっています。また、記事中にあるマテリアルやキットに関する表記は雑誌掲載当時のものになっているため、現在は販売が停止されていたり名称が変更になっていたり価格が改訂されていたりする場合があります。また、プレミアムバンダイ販売アイテムなど購入受けを終了しているものもあります。悪しからずご了承ください。

©サンライズ

Contents;

PLAMAX X・ATH-P-RSC ブラッドサッカー (マックスファクトリー 1/24) 製作／ハタ	4	スコープドッグ&ラウンドムーパー 宇宙戦仕様 (やまと 1/12) 製作／加藤優介	44
BlackRain【唯音雨滴】 (1/20) 製作／WildRiver荒川直人	12	装甲騎兵ボトムズ総合模型演習 2024 イベント会場レポート	48
ボトムズ総合模型演習2024	18	『ウド編』 (パープルレイン／深紫雨音 (しんしうおん)) (1/35) 製作／WildRiver荒川直人	58
「装甲騎兵ボトムズ総合模型演習 2024」とは？	22	『クメン編』 (TRAP／見えざる敵) (1/35) 製作／WildRiver荒川直人	66
〈青き電光〉 (1/24) 製作／WildRiver荒川直人	24	『サンサ編』 (RedWind／赤熱風神) (1/24) 製作／WildRiver荒川直人	76
『装甲騎兵ボトムズ レッドショルダーキュメント 野望のルーツ』 スコープドッグ リーマン機 (ウェーブ 1/24改造) 製作／竹内邦之	32	『クエント編』 (ゴモルの塔／砂風崩壊) (ノンスケール) 製作／WildRiver荒川直人	84
『装甲騎兵ボトムズ 幻影篇』 ベルゼルガ【幻影篇】版 (ガイアノーツ 1/24改造) 製作／学屋	36	天神英貴&MAX渡辺が紐解く ボトムズ“円形劇場”のスゴさココにあり!!	92
『装甲騎兵ボトムズ ザ・ラストレッドショルダー』 スコープドッグ ターボカスタム【PS版】 (ウェーブ 1/35) 製作／吉田伊知郎	40		

PLAMAX X・ATH-P-RSC
ブラッドサッカー
マックスファクトリー 1/24
インジェクションプラスチックキット
発売中 税込8800円

出典／『装甲騎兵ボトムズ ザ・ラスト・レッドショルダー』

製作・文／ハタ

- フル可動のスナップフィット式プラモデルで、とても組み立てやすく、完成後の関節保持力は高い。マーキングは水転写式デカールが付属
- キットには右手のハンドパーツ3種類、着座と立像のイブシロンのフィギュアも付属する。ランナータグにディテール工作に使えるリベットなどがモールドされているのうれしいところ



MAXFACTORY 1/24 SCALE

X·ATH-P-RSC

アーマードトルーパー ブラッドサッカー

集え最低野郎ども！ お待たせしました、入魂のPLAMAXの1/24 ブラッドサッカー一作例をご紹介します！ 製作するはご存じATモデル製作の達人ハタ氏。キットのカッコよさは活かしたうえで、さらにATっぽさを追求するディテール工作や緻密でリアルなウェザリングで作り込み。惚れ惚れするカッコよさですね！

BLOOD SUCKER

PLAMAX
ATモデルシリーズ第一弾をリアルに作り込む！



緻密かつ多層的なウエザリングでリアルに魅せるA1モデリング



◀一見先発のストライクドッグに付属したものとまったく同じように見えるイブシロンの立像だが、ブラッドサッカー付属のものはひと回り小さくなった。ブラッドサッカーと並べるとはっきりなサイズ感にリファインされていて、芸がこまかい！



往年の傑作ソフビキットを元にブラッシュアップされたボトムズプラモに感激

90年代当時のプラモデルを超えるシャープな造形と、レジンキャストキットでは考えられない安価さによって伝説のキットとなったマックスファクトリーのソフビキットシリーズ。同社では、PLAMAX サーバイン以降これらのソフビキットを現在の技術でプラモデルとして蘇らせたキットを次々とリリースしてきていて、このPLAMAX ブラッドサッカ―もそのひとつ。可動モデルとして再設計されていて、ソフビキットでは再現されなかったコクピット内も再現。往年の傑作キットを元にブラッシュアップされたものとなっている。



▶1000年にシリーズ五作目として発売されたマックスファクトリー製ブラッドサッカ―のソフビキット
▶マックスファクトリーの1/24 A.T.プラモデル第一弾となったストライクドッグ。上写真はPOOH熊谷氏による作例で、単行本「ボトムズアーカイブス2」にはこの作例の記事とともに、MAX渡辺氏、佐藤直樹氏を交えた開発陣インタビューも掲載。また、表紙モデルにもなっている、ウェーブ1/24 スコーピオン。せむし回りの作例と併せ見ると、おもしろい



MAXFACTORY 1/24 SCALE

X.ATH-P-RSC BLOOD SUCKER

- 1/24ということで、カラーモジュレーション、剥がすチッピング、フィルタリング、ストレーキング、錆び再現、といったAFVモデルのウェザリングテクニックを駆使することでATモデルをリアルに演出。以下でその手順を解説しよう
- 下地はメカサフスーパーヘビー(ガイアノーツ)にマホガニー(GSIクレオス)少量を混ぜた色で塗装。下地の上には剥がすチッピングのためにケープを塗ってコートしておく。その上にメインカラーのダークブルーイッシュパープル(ガイアノーツ NAZCAカラー)に純色マゼンダ数滴を混ぜた色を重ねていく。次に、白を混ぜた明るい色で面の左端あたりからハイライトを塗っていく。面ごとにマスキングをして、カラーモジュレーションのようなイメージで塗っている。印象的な赤い肩アーマーは、下地が少し残るようにあずき色(GSIクレオス)を塗り重ねた
- デカールを貼って充分乾燥させてからチッピングをしていく。いちばん明るい場所とエッジを中心に、アクリル系うすめ液で濡らしながらケガキ針で剥がすようにしていく。チッピングが終わったらいったんクリアーでコートし、全体のトーンを落ち着かせるためフラットブラック(タミヤエナメル)でフィルタリング。乾いたら、様子を見ながらジッポオイルで拭き取って、ツヤ消しクリアーでコートする。その後、全体にMr.ウェザリングカラーのグランドブラウンとステインブラウンでストレーキングをして、AKインタラクティブのRUST STREAKSで錆を描き込む。足元や下半身は八雲アース&グレイム(GSIクレオス)で汚し、同じく八雲の燃料&エンジンでオイル汚れの描き込んでいる。さらにその上にジャーマンカムフラージュブラックブラウン(ファレボ)でチッピングを追加……というように、時間の許すかぎりウェザリングを多層的に重ねることで、リアルな雰囲気を出しているのだ





●ブラッディライフルは、劇中に登場したキット付属のものとは異なる形状の仕様を改造により再現。側面形状などをプラスチック材で作り返している

MAXFACTORY 1/24 SCALE

X.A.T.H.-P-RSC BLOOD SUCKER







▶キットには立像と着座のイブシロンのフィギュアが付属していて作例では着座フィギュアを組み込んで製作。パイピングを追加している

▶ボルトやリベット表現はATモデルを作り込むときのポイントのひとつ。腰アーマーは、プラ板を貼ってボルトのディテールを作り直すことで増加装甲っぽさを演出。ボルト自体を大きくしつつボルトの穴の周辺をすり鉢状にすることで、より説得力のある形状になっている



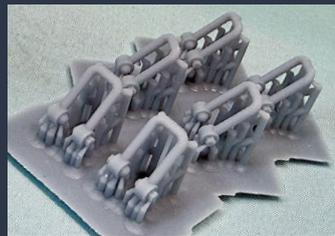
▲肩には「ポートムズ オテッセイ」(2のり書房刊)に載っているヘルゼンの言葉を自作デカールであしらっている



◀胴体もプラ板を貼ってボルト/リベットなどをこまかに作り込んでいる。コクピット内は基本的にそのまま製作し、パイピングなどを追加している



◀本機の特徴である肩のブレードアンテナは、ハタ氏の好みで、長めてより上方向に立った形状に変更。基部にボルトで固定されている表現など、細部のリアリティーにもこだわっている



▲肩アーマーのシャクルはデジタルモデリングで作直した。実際にあるAFVなどでよく見られる、ボルトで固定する形状を表現している
◀プロポーションや可動ギミックはほぼそのまま、ディテール表現にこだわって製作されている

MAXFACTORY 1/24 SCALE X-ATH-P-RSC BLOOD SUCKER

◆**工作**
前頭部から後頭部にかけて2列で並んでいるリベット群は0.7mmのスチールボールに交換。スモークディスプレイジャーは発射口を開きました。
胴体と腰は、各面に0.5mmプラ板を貼り各面の端点内側に2mmの穴を開く。すり鉢状にテーパをつけてからウェーブのR・リベットを埋め込みました。胴体側面には

◆**作例のコンセプト**
仮組みした印象は、正直ほとんど手を加える必要がない！そのまま作れば申しぶんのない。吸血鬼、が爆誕します。ホント模誌モデラー泣かせですね。ですので、今回は個人的な好みで手を加えました。まず表面のディテールをよりAFV的にして、本誌24年6月号の特集で製作したスコープドッグのテイストに合わせるようにしました。また、ブラッディライフルは劇中で使用されたもうひとつのデザインを再現することにします。難しいのが塗装ですが、黒(もしくは黒っぽい色)はウエザリングで調子をつけにくいので、イメージを崩さない範囲でなるべく明度を上げつつ汚しを加えることを課題としました。

◆**ヘルゼンのために……**
左肩には、ソビエト戦車の砲塔に書き込まれたスローガンのものを自作デカールで表現しています。「ヘルゼンのために」でもよかったです。ヘルゼンのために「ATとは鍛えられた肉体のさらなる延長である」というヘルゼンが言ったらしい格言をギルガメッシュ文字で書いてみました。■

◆**作例のコンセプト**
仮組みした印象は、正直ほとんど手を加える必要がない！そのまま作れば申しぶんのない。吸血鬼、が爆誕します。ホント模誌モデラー泣かせですね。ですので、今回は個人的な好みで手を加えました。まず表面のディテールをよりAFV的にして、本誌24年6月号の特集で製作したスコープドッグのテイストに合わせるようにしました。また、ブラッディライフルは劇中で使用されたもうひとつのデザインを再現することにします。難しいのが塗装ですが、黒(もしくは黒っぽい色)はウエザリングで調子をつけにくいので、イメージを崩さない範囲でなるべく明度を上げつつ汚しを加えることを課題としました。

◆**ブラッディライフル**
銃本体の前部や側面モールドをプラ板で形状変更。ストック部はキットのままだとなんかやわらかい感じがしたので1mmプラ板で幅増しして、ウェーブO・ボルトと真ちゅう線で作った自作フックを2カ所に追加。このあたりはスコープドッグの作例と同じですね。

◆**作例のコンセプト**
仮組みした印象は、正直ほとんど手を加える必要がない！そのまま作れば申しぶんのない。吸血鬼、が爆誕します。ホント模誌モデラー泣かせですね。ですので、今回は個人的な好みで手を加えました。まず表面のディテールをよりAFV的にして、本誌24年6月号の特集で製作したスコープドッグのテイストに合わせるようにしました。また、ブラッディライフルは劇中で使用されたもうひとつのデザインを再現することにします。難しいのが塗装ですが、黒(もしくは黒っぽい色)はウエザリングで調子をつけにくいので、イメージを崩さない範囲でなるべく明度を上げつつ汚しを加えることを課題としました。



ボルト／リベットひとつにまでこだわる。
それがハタ氏流AIモデリングの粋



蝶の羽音も閉ざされる。濁りうねる河の流れ、すべてを流す黒き雨の音。
そして、最低野郎井を喰らうかのように、密林の口が静かに開かれる。
このマルン河の支流の合流ポイントに“チーム・アリゲーター”の4名が集合した。
途中の投下ポイントで、ATブライから河のなかに降下した3名と、高機動推進バックパックを背負ったマーシィ・Bee・ドッグ。
この合流ポイントには、ジャングルに仕掛けられたトラップの起動制御タワーが、びっしり覆われたツタのなかに隠れている。
トラップの起動プログラムを無力化するため、ブレーカーのスチュアートがお得意のウィルスを送り込む。
トラップが無力化する時間は限られているため、ポイントマンのテッドが先行して、このいやらしいジャングルのなかに分け入ることになる。
あいつは、雨が降るとかなり機嫌が悪くなるから念を押しておかないと。
調子の悪い水中スクーターを騙しだまし使い、遅れてきた運び屋のアレックスは、補給品と補充用ナバーム弾を運んで来た。
このマーシィ・Bee・ドッグは、ジャングルでの渡河作戦用に高機動推進システムと冷却システムを追加された大型バックパックを背負い、
改造やメンテナンスを容易にするため、足部分のみの改造で河での移動用に
ハイドロジェット推進装置が施された特殊機体だ。
ジャングル戦用のナバーム弾のキラビー・バズーカを背負うと、異様な姿に見える。
そろそろ、スチュアートのウィルスもまわってきたころか。テッドのあとに続いて、この俺様も――。
雨の音だけが、この暗いジャングルに染みわたる。

BlackRain [唯音雨滴]

ボトムズ「円形劇場」、あの名作をイベントに併せ再撮影して掲載!

WildRiver荒川直人氏はジャングル情景を十八番としていますが、それを強く印象つけた作品のひとつが、モデルグラフィックス'08年7月号に掲載されたこのダイオラマ。製作から17年を経てボトムズ展に展示されることになったのに併せ、再撮影のうえ再掲載することにしました。

BlackRain [唯音雨滴]
BANDAI SPIRITS 1/20 スコープドッグ使用
出典 / 『装甲騎兵ボトムズ』
製作 / WildRiver荒川直人



9784499234337

ISBN978-4-499-23433-7 C0076 ¥4500E

定価(本体4,500円+税)



1920076045004

Model Graphix Votoms ARCHIVES

3

©サンライズ

